

# 施策評価表

平成28年度分

① 施策コード	5・2・3					
② 施策名	土地利用の合理化、町土の保全	評価担当課	企画財政課	総合戦略	行政経営	過疎
③ 目標	自然や木々の緑の豊富さに満足している町民の割合			施策の内容	本町の計画的な土地利用を推進するため、「国土利用計画」を策定し適正に誘導します。また、乱開発を防止し、緑豊かな環境を保全するため関係法令に基づいた適正な規制・指導を行います。	
④ 現状と課題	◆ 地球温暖化、オゾン層破壊、天然資源の枯渇、廃棄物の増加など様々な環境問題を背景に、環境へ配慮した取組みが以前にも増して強く求められています。 ◆ 化石燃料の使用拡大が地球温暖化に大きな影響を与えるといわれる中で、環境への負荷が少ない再生可能エネルギーが注目されています。自然環境に恵まれている本町にあっては、地球温暖化への影響が最も大きいとされる二酸化炭素を吸収する森林の保全・育成とともに、潜在的なエネルギーの活用について検討し、環境負荷の軽減に努めていく必要があります。 ◆ 近年急激に進む人口減少や高齢化の影響を受け、荒廃した山林や耕作放棄地などが増加していますが、こうした土地を適正に管理するため、「国土利用計画」を見直し豊かな自然環境の保全に努めていく必要があります。					
⑤						

## ⑥ 目標指標

指標名	単位	基準値	目標値(上段)・実績値(下段)					
			27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	
自然的土地利用面積(農地、森林、原野、河川等)	ha	22,954			-	-	22,855	
			22,838	-				

構成事務事業の事業費合計(単位:千円)

構成事務事業の事業費の合計	27年度	28年度	29年度(計画)	30年度(計画)	31年度(計画)
	0	1,556	310	310	310

## 1年間の取組の総括

⑧ 1年間の主な取組と成果	・乱開発の防止と緑豊かな環境を保全するため、開発事案について、適正な審査を行った。 ・開発現場を巡回し、適切な指示を行った。	
⑨ 施策の進行管理 (構成事務事業の評価結果をもとにした施策の進捗状況の判定)	◎	【◎】おおむね順調 【○】いっそうの推進が必要 【△】抜本的に見直しや改善が必要

## 今後の取組

⑩ 今後の取組	土地開発調整会議において、開発内容を適正に審査し、また、開発業者への指導等を行いながら、適正な土地の利用を図る。 大雨の時期(8~10月)の前に調査を実施し、開発現場の災害対策を図る。
---------	---

⑪ 次年度以降の方針 (主担当課)	現状維持	【説明欄】 土地開発調整会議において、開発内容を適正に審査し、また、開発業者への指導等を行いながら、適正な土地の利用を図る。
委員会評価	現状維持	【委員会意見欄】 引き続き、土地開発調整会議において、開発内容を適正に審査し、また、開発業者への指導等を行いながら、適正な土地の利用を図ること。